子どもの個性が輝くまち しんじゅく

趣味やスポーツなど、好きなことを見付けて一生懸命に打ち込む新宿の子どもたち。目標に向かって仲間と競い合い、努力を重ねる姿は、周囲の子どもや大人にとっても力になります。今回は、一つのことに挑戦する子どもたちを紹介します。

【問合せ】
区政情報課広報係（本庁舎3階）
☎（5273）4064へ。

仲間とともに白いボールを追いかけて　西戸山フラワーズ

▼チームをリードしてきた6年生。「中学生になってもソフトを続けたい」「ほかのスポーツにも挑戦してみたい」と目標はさまざま

▲練習では息もぴったり。チームワークを磨きます

「西戸山フラワーズ」は創部30年を超える小学生女子ソフトボールチーム。現在、3～6年生の15名が活動しています。

「最初はソフトボールをよく知らなかった」という子どもがほとんど。「ボールの投げ方や守備で、練習していたことができるようになるとすごくうれしい」と話してくれたのは、キャプテンの黒﨑美沙音（みさと）さん。メンバーも「少しずつ打てるようになった」「ボールを投げられる距離が伸びてきた」と、それぞれに日々の練習成果が出て、より楽しくなってきたと話します。昨年の北京オリンピックでは、女子ソフトボールチームが金メダルを獲得する大活躍。「夏休みの自由研究でソフトボールを取り上げて発表した」というメンバーもいて、ますますソフトボールにかける思いも高まりました。

▲黒﨑さんはピッチャーとしてもチームを支えます

昨年は、新宿区少年軟式野球大会ソフトボールの部で優勝。「監督やコーチは厳しいけれど、熱心に指導してくれるので、チームのみんなが上達しました。朝練習にも参加するなど一生懸命に取り組んだ結果、6年生で優勝できてよかった。6年生はオール新宿（区代表チーム）にも参加し、ほかのチームの人とも交流できたことはよい経験でした」と黒﨑さん。

仲間とともに努力し、成長していくメンバーの姿は頼もしく、これからの活躍が楽しみです。

▲毎週土曜日の全体練習のほか、火～金曜日に朝練習に取り組むメンバーも

▲「バックホーム！」大きな掛け声で守備を確認

プロ棋士を目指して日々精進　少年少女囲碁全国大会優勝

昨年、「第29回文部科学大臣杯少年少女囲碁大会全国大会小学生の部」で優勝した平野翔大（しょうだい）くん（牛込仲之小学校6年生）。「前回は負けて悔しかった。今年は「絶対負けない」と、棋譜（過去の対局の記録）をたくさん読むなどしっかり準備をして、自信を持って臨みました。優勝できて本当によかったです」。

囲碁の漫画をきっかけに、小学1年生で囲碁を始めた平野君。3年生から洪（ほん）道場（市谷左内町）に通い、腕を磨いてきました。「学校が終わるとすぐに道場に行き、3時間くらい研究。家でも棋譜や囲碁の本を読んで勉強しています」というほど、夢中になっています。「対局の先を読みながら相手の石を取るのが面白い。読み通りに勝てると気持ちがいいです」と話してくれました。

「将来は、囲碁で稼げるプロになる」と決意を語る平野くん。1分1秒も無駄にしない姿勢で、今日も碁盤に向かいます。

昨年の「文部科学大臣杯第5回小・中学校囲碁団体戦」では、市谷小学校チーム（藤沢里菜さん（4年）・山村萌枝（もえ）さん（5年）・太田憲吾くん（3年））も第3位と活躍しました。

▲碁盤に向かう表情が真剣さを物語ります

史上最年少で九段を取得した張栩（ちょう）名人が目標▲

▲対局だけでなく棋譜並べや仲間との議論も練習になります

「お笑い」にネタ作りから挑戦　新宿ちびっこ漫才グランプリ

「どうも、どうも～」と舞台に登場。元気いっぱい、ギャグの連発に、会場は大きな笑いと拍手に包まれます。

新宿区は昨年11月2日、（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシーの協力で、「新宿ちびっこ漫才グランプリ」を開催。「食とエコ」をテーマに、6歳～中学3年生の45組が漫才に挑戦しました。

「ネタは家族で考えました。練習通りにできて決勝に残れたので、思い切りやります」。本番前に意気込みを話してくれた影山礼（れい）くん（小学4年生）は、妹の心（こころ）ちゃん（6歳）と「コレこいろ」として出場。お父さんがアメリカ人、お母さんが日本人という家族構成と、家庭の国際色あふれる食事メニューをネタに盛り込んだ漫才を披露し、決勝では2位に入賞しました。

「『脂肪はメタボよ～』って、わたしが考えたギャグができてよかった」と笑顔の心ちゃん。「新宿に引っ越してきたばかりで、何かに挑戦してみたいと思って参加しました。笑うことが好きだし。稽古（けいこ）のとき、みんなすごく頑張っていて、とても刺激になった」と礼くん。「練習中に妹とケンカをしたこともあったけど、漫才の面白さも分かった。これからも自分でネタを考えたりして、続けていきたいです」。

プロも大笑いするほどの漫才で、会場を大いに盛り上げた子どもたち。自分たちでやり遂げたという満足感が自信となって、笑顔もひときわ輝いて見えました。

▲「決勝でいちばん力が出せたよ」影山礼くん（右）と心ちゃん。「わが家のメニューはピザのしゃぶしゃぶに納豆シェイク！」「インターナショナル～」が大うけ

▲9月からプロの作家や芸人さんと一緒にネタ作りやネタ合わせをしてきた成果をいよいよ発表します（決勝直前の説明会で）

▲どのグループも達成感に満ちた表情（決勝後の表彰式で）

▲双子のコンビ「けんだまんず」で3位になった佐藤嘗（ほまれ）くん（左）・基（もとい）くん（小学2年生）。「会場から手拍子をもらいやすいと思ってヒップホップ調でけん玉をしました。大成功！」

▲稽古への参加を機にコンビを組んだ「ダイヤリアル」のひとみさん（左・中学3年生）・さやかさん（小学5年生）。「お笑いが好き。稽古日以外も練習しました。本物の舞台に立って楽しかった」